

事業所名

療育ケアMARINE RAINBOW 久留米高校前

支援プログラム

作成日

令和6年

9月

18日

事業所理念		「型」にはめることなく、自分自身を自由に表現できる環境の中で、お一人お一人の「個性」を大事にしながら、自らの可能性を広げていただくこと。		
支援方針		まずは児童様が「今日はマリンで何をやるんだろう？」とワクワクした気持ちで楽しみに来所していただけるよう環境や雰囲気作りを行っています。その中で遊びや活動を通して「出来た！」をたくさん増やしていけるよう日々療育を行っています。MARINE RAINBOW 久留米高校前では、大きな成長はもちろんですが、小さな成長も非常に大切にしており、スモールステップの積み重ねが児童様の大きな成長に繋がると考え、児童様はもちろん保護者様と一緒に共感し、療育を提供していきます。		
営業時間		平日：9:30～18:30 学校休業日・土祝：8:30～17:30	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	来所してからの活動の流れを視覚化し、スムーズに動作へ移せるように支援を行っています。また、児童発達支援の児童様もいらっしゃるため、日常生活動作の練習も取り入れています。内容としては手洗い・トイレ・着替え・挨拶・食事動作が出来るように個別療育や小集団療育を通して職員と一緒に楽しみながら練習を行っています。食事の好き嫌いに関してもその児童様に合った支援を行い、苦手なものも無理せず嫌がらず食べられるように支援を行っています。		
	運動・感覚	まずはしっかりと身体を動かして遊ぶということを大切にして、その中でお一人お一人の発達段階や個性に合わせて運動機能面(体幹・バランス・手先の筋力等)を上げていくため、感覚受容器(児童様が過敏なのか、鈍麻なのか)を評価しながら感覚統合(感覚遊び)を伸ばしていけるような療育内容を取り入れています。内容としては、例えば児童様が困っている黒板の板書が難しい等の困りごとにアプローチするため就学移行訓練を取り入れており、その中でビジョントレーニングや2重課題(何かをしながら話をする等)を取り入れています。		
	認知・行動	まずはなぜその児童様がそのような行動になるのか行動を分析し、環境を変えたり、職員全体で統一した声掛け・対応をしていきます。不安やストレスなどの反応パターンが児童様の悪循環とならないように、どのように考えたり行動すれば落ち着けるのかを一緒に考えながら支援しています。		
	言語 コミュニケーション	ことばの三要素である、わかることば(内言語)・いえる言葉(音声言語)・コミュニケーション(伝えたい気持ち)を大切にしています。また、話し言葉によるコミュニケーションだけでなく、身振りやカード、文字などのノンバーバルな面のコミュニケーション方法も促しながらお一人お一人の個性に合わせた療育を行います。一緒に遊ぶと楽しい！できた！通じるよ！を大事にして、楽しみながらコミュニケーションの支援をしていきます。また、構音面(発音)の部分も身体的なバランスを評価しながら、口腔機能・構音の訓練も行っています。		
	人間関係 社会性	小集団の中での活動を通して、相手の気持ちを考えて行動することやコミュニケーションについて学んでいきます。また、人との正しい距離間を生活場面、療育の中で声掛けや実際に触れ合っていきながら伝えていきます。交通ルールや社会的なルールなども遊びの中でロールプレイして学んでいながら、外出活動時に実践しています。		
家族支援		送迎時や連絡帳を通して児童様の事業所での様子、それに対する今後の課題や取り組みをお伝えしています。また保護者様からの疑問やご相談もミーティングを通して職員全員で考えたり、電話でお話をさせて頂いたりしています。	移行支援	年長児を対象とした就学移行訓練を取り入れています。主な内容としては姿勢保持・鉛筆の握り方・黒板の板書(目と手の協調性)・指示理解に特化した内容を専門職を中心に考えて療育内容に取り入れています。
地域支援・地域連携		外出時に地域の文化や歴史を体験できる場所に行き、実際に見て学んでいます。	職員の質の向上	ミーティングの時間に職員1人1人が自分で研修内容を決め、持ち回りで職員研修を行っています。当事業所では様々な職種の職員がいるので各職員が自分の得意分野について発表を行っています。
主な行事等		季節の行事(花見、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、初詣、書き初め等)を取り入れられるようにして、四季を感じる活動や外出支援を行っています。年に3回ほど保護者会を開催して保護者様と職員の交流の場を作っています。		